

公益財団法人全国法人会連合会長賞

税に関する中学生の作文

命を守るみえない優しさ

山鹿市立鹿本中学校 3年 城 佳澄さん

私には弟がいる。弟はいつも元気で明るいがよく高熱を出して苦しんでいる。私はその姿を見ると一年前、弟が熱痙攣による意識不明で救急車で運ばれ一週間入院したことを思い出す。その出来事は父にも母にもかなりの衝撃だったらしく、めったに口にしない。弟が退院をし、家に帰ってきた時父はボソッと母にいていたことを私は聞いていた。

「少しでもたくさん働いて、一円でも多く納めるんだ。助けてもらった恩返しとたくさんの人を助けてほしい想いを納めるんだ。」

私には父が何を言っているのかさっぱりわからなかった。半年が過ぎた弟の3歳の誕生日に、私は思い切ってその意味をたずねた。

弟は、緊急入院だったため検査や食事、薬などにお金がとてもかかったそうだ。その医療費を一度で退院と同時に支払おうとした父は、その価格に愕然としていた。しかし、看護師さんが山鹿市子ども医療費助成制度や子どもの入院などを支援する制度などたくさんの保障を紹介して下さったそうだ。その制度を利用した結果、ほとんど無償ですんだという。「山鹿市子ども医療費助成制度」は山鹿市が0歳から十八歳までの子どもを対象に医療費の一部を助成する制度である。この制度のおかげで、私も、兄弟も薬をもらったり病院で受診を受けることができている。父は、「市の医療費助成制度も救急車をすぐに呼べるのも日本の人々が税金を納めてくれているからなんだ。その税によって沢山の命が助けられているし、公務員である父さんと母さんの給料もいただけるんだよ。」

と話してくれた。税金のおかげで助けられた命、生活をするためのお金、健康でいられることなど色々な幸せや優しさが身の回りであることを知ることができた。この時、私はやっと父が母に言っていた言葉を理解した。父は税金で優しさのバトンをつなごうとしているのだと感じ、今まで不満ばかり言っていた自分が少し恥ずかしくなった。

私の両親は小学校の教師だ。私は両親が忙しそうにしている日を小さいころから見たことがない。いつも仕事の電話が夕食の時に掛かってくる。夜はパソコンを覗んでいる。

休日の昼は丸つけ。私はそんな毎日を送る両親の背中をずっと見てきた。遊んでもらえることはほとんど無かったし、家の手伝いをさせられることも多く、愚痴を言うことも多かった。しかし、父と母の思いを知った今、私は「ありがとう」と毎日思うと同時にとても尊敬している。

私は両親のように税金のありがたさを理解して優しさのバトンをつなげることのできる大人でありたい。自分自身の生活も、たくさんの人々の生活も幸せになるように願って納税をする大人になりたい。

公益社団法人山鹿法人会会長賞

税に関する中学生の作文

もしも税金がなかったら

山鹿市立鹿北中学校 3年 中村 謙太さん

私が住んでいる鹿北町は高齢者の方が多く救急車がよく通ります。また、私が所属している剣道クラブの先生の一人に駐在所に勤務されている方がいます。このように私たちの生活を支えてくれる方々がいるのは税金のおかげです。もしもこの税金がなかったとしたら一見支出が少なくなりいいように見えるかもしれませんが、実際は救急車や警察、消防車を呼ぶのも費用がかかってしまうし、私たちが普段行っている学校もより多くの費用を払わなければならないのです。

そうなるのであれば多くの人が教育を受けられなかったり、火事や事故が増えたりと私たちにとって困ることがたくさん見えてくるのです。

私はこのことを想像したとき税金の見方が変わりました。私はいままで買い物をするとき「消費税がなければもっと安く買えるのになあ」と思っていました。調べ学習や想像を通して改めて税金や税金を払ってくれている人に支えられているんだなあと感じました。また、自分もいつかは働いていくつかの税を納める立場になっていくことを実感しました。

働いていくつかの税を納める立場になったとき税金の間違ったイメージを持たない人になろうと思いました。

しかし、私は疑問に思いました。「働いている人、全員が同じ額の税金を納めたら困る人が出てくるのではないかと。調べてみると累進課税といって所得に応じて税率が変わる制度があることがわかりました。こうすることでみんなが公平であることがわかりました。」

しかし今課題になっているのは日本の社会の少子高齢化により、将来働き手が少なくなり、将来働き手の税金の負担が大きくなることです。こうした問題に女性の働き手を増やせる環境を創ったり、AIなどを使い、働く環境を変えて生産性を上げるなどの改革がされています。

このように私達を支えている税金は、私たちにとって必要不可欠である物ということがわかりました。しかし、近年問題になっている少子高齢化で高齢の方が増え若者が減って若者の負担が大きくなるという問題もありますが、しっかりとそれに応じた対策があるということもわかりました。

私はこのことを通して、税金にいやなイメージを持つのではなく、税金がある意味を知ったうえで税金を払っていこうと思いました。

